

科目名	先端老年社会科学講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	島田裕之 (非常勤教員)、大塚 礼 (非常勤教員)、斎藤 民 (非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド形式 (対面・オンライン) ※対面は名古屋キャンパス	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> 健康増進、疾病・障害予防、コホート研究、認知症 <内容の要約> 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、3名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。 <学習目標> 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案する。	
授業の進め方	第 1 回 高齢化の疾病・障害予防についての動向 (島田) 第 2 回 高齢者のフレイル予防 (島田) 第 3 回 高齢者の認知症予防 (島田) 第 4 回 高齢者の移動に関する問題について (島田) 第 5 回 高齢者のウェルビーイング (斎藤) 第 6 回 高齢期の社会関係 (斎藤) 第 7 回 高齢期の栄養・食生活と健康 (大塚) 第 8 回 認知症と食事：一次予防から三次予防まで (大塚)	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント研究科 修士課程) 高齢者福祉論特講 (社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 (通信教育) 修士課程)	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日 (2 限分) の小レポート 40 点、最終レポート 60 点で 100 点満点。総合評価により 60 点以上を合格とする。	

科目名	統計解析講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1 単位
担当者	川野 伶緒 (非常勤教員)	
開講形態	対面形式 ※名古屋キャンパス	
テーマ	研究における実践的問題を解決するための統計学の方法論について理解を深める。	
科目のねらい	<キーワード> 統計学、臨床疫学、統計解析 <内容の要約> 本科目では、研究における実践的な問題を解決するための統計学の理論・応用について学ぶ。ただし、統計や統計学には膨大な研究の蓄積があり、その実践はきわめて多岐にわたるため、本科目のみでそのすべてを取り扱うことはできない。そこで研究を遂行する上で避けて通れない”交絡”という現象を中心に、データ解析の方法論について理解を深める。具体的には、交絡という不思議な現象とその影響、交絡の調整方法、回帰分析による解析方法とその解釈について解説する。またこれらを習得するためサンプルデータを用いたデータ解析の実践演習を行う。演習には R/RStudio という無料で利用できる統計解析ソフトウェアを用いる。 <学習目標> 1. データの種類や性質に応じたデータの記述と用いる指標を理解することができる。 2. 交絡を理解し回帰分析による交絡調整ができる。 3. 統計や統計学的知識を正しく使うための留意点を知り、自身の研究につなげることができる。	
授業の進め方	第 1 回 研究仮説の立て方と Directed Acyclic Graph の応用 第 2 回 R/RStudio を用いたデータハンドリングと図表作成 第 3 回 交絡という現象とその対処 第 4 回 回帰分析による交絡調整 第 5 回 R/RStudio を用いた多変量解析Ⅰ 第 6 回 R/RStudio を用いた多変量解析Ⅱ 第 7 回 データ解析の実践演習 第 8 回 発表、まとめ、レポート作成	
事前学習の内容・学習上の注意	講義時間が限られているため、「本科目の関連科目」に示した科目にて取り扱う内容を理解していること前提とする。 また、統計学的命題について、厳密な数学的証明は避け、あくまで統計・統計学のエンドユーザーとして必要とされる直感的な理解を目指す。必要に応じて以下の参考文献や講義中に提示する文献等を参照されたい。	
本科目の関連科目	研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅱ(大学院共通科目)	
テキスト	指定なし(必要に応じ講義資料を配布する)	
参考文献	基礎統計学Ⅰ 統計学入門. 東京大学出版会 (ISBN : 978-4-13-042065-5) 現代疫学 (原著第 4 版). 学術図書出版社 (ISBN : 978-4-7806-1245-5)	
成績評価方法と基準	1 回ごとのコメントカードの内容 (最大 40 点)、発表 (最大 20 点)、レポート評価点 (最大 40 点) を合わせた総合点によって成績評価する。総合点が 60 点以上の場合を合格とする。	